

栄養教諭部会 理論研修会 終了報告

テーマ	コロナ禍の現状認識と栄養の役割		
日時	令和 3年 6月 29日(火) 14時30分～16時30分		
会場	北広島市芸術文化ホール		
講師	石塚 敏氏 (肩書:北海道大学大学院農学研究院 教授・農学博士)		
参加者	21名		
研修会 の 様子		北海道大学大学院農学研究院の石塚聡教授を講師に迎え、道内における新型コロナウイルス感染症の感染拡大の推移や免疫細胞の働き、ウイルス感染と栄養素の関係などについて講演をしていただきました。 研修会はフィジカルディスタンスを取りながら、実施しました。	
		道内では、札幌の感染比率が高く、札幌の動きが北海道全体の動きとなっているが、現在、検査実施人数は減少傾向にあるとのことでした。(研修会当時) また、免疫について、新しい情報を含め、専門的な知識を得ることができました。	
		ビタミン類やミネラルは、新型コロナウイルスへの効果を実証されているわけではないが、ウイルス感染に対して予防的に作用すると考えられていること、また、心身の健康には、栄養バランスに加え、適度な運動も必要なことを再認識できたので、改めてバランスのよい食事や栄養素の摂取と体を動かすことの大切さを子どもたちに伝えていきたいと思いました。	
		質疑応答では「家族内で感染する人、しない人の違いがあるのはなぜか」「加熱はコロナウイルスに効果があるのか」といった質問があり、免疫応答が良い人は感染しにくい、また、加熱効果はあるがそれに期待するよりも、感染リスクの軽減には、黙食など食べる環境への注意や配慮が重要であることを確認でき、とても有意義な研修会となりました。	